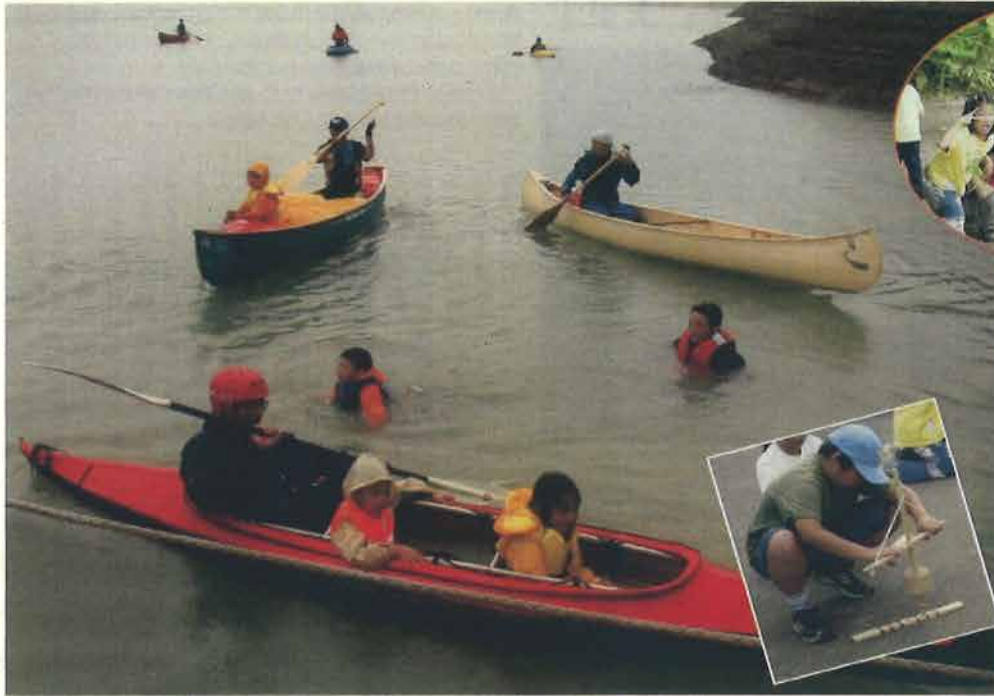


# 大好き! 幾春別川

DAISUKI! IKUSYUNBETSU RIVER

発行元: 幾春別川ニュース編集委員会  
編集委員長 嵯峨 尚輝

〒058-0007  
岩見沢市大9丁目 石狩川開発建設部岩見沢川(事務所)内編集委員会事務局  
TEL: 0126-23-9555 FAX: 0126-25-1697



## わくわくどきどき... 自然満喫トムソーヤキャンプ

写真: <右上>森の中でナイチャーゲーム、<中央>カヌーと水遊び、<右下>火起こしに挑戦、<左下>ダッチオープン料理が完成、<左端>ツリークライミング



今年もトムソーヤキャンプに参加しました。ダッチオープン料理大会にツリークライミング、自然とふれあう様々な体験力リキユラム、そして柱沢遊でのカヌー体験と、盛りだくさんのプログラムでした。

トムソーヤキャンプの魅力は、非日常的な体験ができること。参加した子供たちは、初めての体験に目をキラキラと輝かせていました。見るもの、ふれるもの、やってみるものも、すべてに新鮮な驚きと喜びを感じたようです。

なかでも子供たちが一番いい顔をみせたのが水とのふれあいでした。ライフジャケットを善用してカヌーを体験したあと、「そのまま飛び込んでいいぞー!」のスタッフの声に、あいにくの雨天も何のその、服のまま湖に飛び込んで大はしゃぎ。最高

の笑顔を見てくださいました。照的に、目をまん丸くしている親たちの姿も印象的でした。このような体験ができるのは、有能なスタッフの揃っているから。能力や経験はもちろん、自ら楽しんでいられる点が何よりも最高です。

来年はどんな自然体験ができるのでしょうか。今回参加した子供たちは、期待に胸をふくらませていることでしょう。

(幾春別川をよくする市民の会事務局長 西万洋昭)

## 今年もサケのそ上を確認。 幾春別川をよくする市民の会

「幾春別川をよくする市民の会」は毎年9月25日から10月の末日までの期間、流域の町内会の人々と協力しながらサケのそ上観察を行っています。今年は、観察ポイントとなっている川向頭首工付近の水層が多く水も濁っていることなどから、昨年より2週間ほど遅れた10月14日に、そ上を確認されました。10月16日までに確認されているのは46匹。今年はこのぐらいのサケがそ上してくてくれるのか、多くの人が期待を寄せています。



〔出典「岩見沢市史」など〕

話 3  
Part 3  
「地名の由来」  
知っていますか

### 岩見沢

は、北道道では数少ない「和名由来型」の地名の一つです。その内容は「糠内渡越開採のため、札幌と糠内間の道路開削工事に従事する人たちが、幾春別川の川辺に休憩所を設け、浴(ゆあみ)として使われ、その地を浴澤(ゆあみさわ)と呼んだ。それが転じて岩見澤となった」というものです。

現在、岩見沢神社にある「岩見澤」の碑文に記されており、これが定説とされています。他にも「人名説」「アイヌ語説」「石炭を見分ける澤説」「石見澤(岩見澤)」「石を見分ける澤説」などの説もあります。



# 水位を下げて水害に強いまちに 「幾春別川新水路事業」ただ今、工事中

石狩川の洪水氾濫源である幾春別川下流域及び旧美唄川流域は、泥炭性の軟弱低平地帯であることから、洪水で石狩川の水位が高くなると幾春別川と旧美唄川が流れにくくなり、しばしば全域が浸水してきました。

そのため北海道開発局では、洪水被害の軽減を目的に幾春別川新水路事業を実施しています。

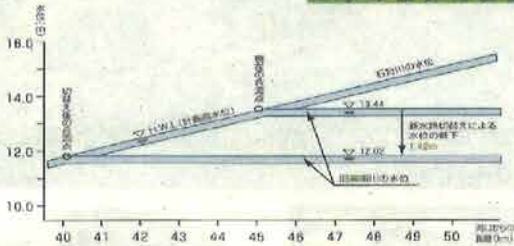
この事業は、幾春別川に旧美唄川を合流させ、幾春別川と石狩川本川との合流点を現在より5・4キロメートル下流に移すことにより、地域が受ける石狩川の水位の影響を少なくしようとするものです。石狩川の水位がより低い下流側に合流点を移した結果、洪水時の水位はこれまでよりも幾春別川下流で

1・20メートル、旧美唄川下流では1・42メートル下がり、洪水被害の発生頻度を低減することが出来ます。また、本事業は「緊急対策特定区間」として、特に緊急性が高い区間において効果の早期発現を目指す、集中的に重点投資を行う箇所となっています。



幾春別川新水路完成予想写真

## 工事の設計概要図



### 旧美唄川で河川調査を実施・北村

北村の旧美唄川アカツメクサなどの左岸にある「水」の草花と、川の中辺の築校で、河では投網でイハラ川調査が9月10日、トミヨなどを採捕に開かれました。し観察しました。自然体験や交流、また、水質浄化の場として、川と効果があるサリカナ環境をつくっての付き合いかたをした。午後からは「考えることが目的の植栽も行われました。主催は、北村、NPO法人で4キロ、

「山のなない北村の緑地」など7回体の共催で約60人が参加しました。河川敷に咲いている大きなモクソウを発見!



## 地元チーム善戦!! Eボート大会inしのつ湖



親子で力を合わせた「幾春別川をよくする市民の会」

「ボート遊びを楽しみながら川や流域のことを知り、上下流の人々が同じ生活文化圏にいることを確かめ合う」ことを趣旨とする第9回北海道Eボート大会が8月23・24日、新穂津村で開催されました。幾春別川流域の岩見沢市と北村から「Go!Go!ヤギハシ」(岩見沢漁川事務所)・「幾春別川をよくする市民の会」・「北の勇者きたむらチーム」(北村)の3チームが参加しました。初日は「しのつ湖」周遊のほか基調講演・シンポジウムが実施されました。2日目には、22チーム・270名が参加して、Eボートトーナメント大会が行われました。

昨年、子供中心のメンバーで参加したものの強風で無念にもスタート地点に到達できなかった「幾春別川をよくする市民の会」が、今年は大人も交えて再挑戦し、見事に1回戦を突破。2回戦は惜しくも敗れたものの、レースをリードする子供たちの元気な声や、大人と子供が見事なチームワークなどが評価されて特別賞を受けました。「北の勇者きたむらチーム」は、力余ってバトルを折るメンバーもいましたが、男性ばかりの力強いバトルさばきで初出場ながら見事4位に入賞しました。



他のチームを振り切ってゴールした「北の勇者きたむらチーム」

## 花と人と、ふれあい大切に~ 地域ふれあい清掃 フラワーライン秋

### 幾春別川をよくする市民の会

毎年春と秋に河川敷に花を植えていきて、今年で6年目。今回は、台風による悪天候で延期となっていた「地域ふれあい清掃」と合わせて開催され、岩見沢市立緑中学校の生徒90名を含む約150名が参加しました。スイートピー、ルビナス、



「幾春別川をよくする市民の会」0株と、スイセン、チューリップなどの球根1800個を長さ約40メートルに汗を流して植えたほか、周辺のごみ拾いや草刈りを行ない、きれいな河川環境づくりに貢献しました。



# 自然の中ですくすく



## 釣り教室とラフティング

### 三笠の湖・川 緑を愛する会



ラフティング体験

毎年恒例の親子釣り教室が7月27日、幾春別川支流の奔別川(ほんべつがわ)で開催され、三笠市内外から多くの人が参加しました。子供たちは、たちから教えてもらって、ゴムボートに乗ってからはカメラをとり余裕もありました。水の冷たさにも負けず、積極的に川の流れの中の泳ぎやロープの投げ方などを学び、伸び伸びと自然のながで遊んでいました。



釣り教室

毎月恒例の親子釣り教室が7月27日、幾春別川支流の奔別川(ほんべつがわ)で開催され、三笠市内外から多くの人が参加しました。子供たちは、たちから教えてもらって、ゴムボートに乗ってからはカメラをとり余裕もありました。水の冷たさにも負けず、積極的に川の流れの中の泳ぎやロープの投げ方などを学び、伸び伸びと自然のながで遊んでいました。

## 名産紹介



### 岩見沢の タマネギ

岩見沢の特産品の一つとして「タマネギ」があげられますが、ここ数年、タマネギに逆風が吹いています。北海道内で昨年、タマネギが大量廃棄されて道民に大きなショックを与えたことは、記憶にも残っていることと思います。

そのような中、JAIいわみざわと岩見沢市の共催で「特産品アイデア・コンテスト〜たまねぎ編」が9月に開催されました。タマネギの二次利用を市内外から広く募集し、岩見沢産タマネギをPRしようというものです。

多数の応募作品の中から最優秀賞に選ばれたのは、栗沢町の石田浩基さんの作品でした(写真)。タマネギをベーコンと一緒に、岩見沢産のブランド米「情熱米」に固形スープで炊き込んだ「たま飯」です。



# 夏の思い出いっぱい

## イベントで大盛り上がり

### 三笠ダムフェスタ&みかさ遊園まつり



三笠ダムフェスタ2003&みかさ遊園まつりが7月27日に開催されました。今年で10回目のを迎え、三笠や周辺の市町村の夏のイベントとして定着してきています。

当日はくもりながら2000人近くが来場しました。参加者の中には、



緑日コーナーなどがあり、終日にぎわいました。なかでもイベントの最後に行われた金魚つかみ取りには、たくさんの子供が参加して大盛況でした。また、ダム発電所、浄水場を見学する水めぐり、見学ツアーにはたくさんの参加申し込みがあり、ダム関連事業への関心の高さを感じました。

## 副読本を活用した総合学習の取り組み

三笠市立幌内小学校(宮崎明広校長)の児童20名が6月下旬、学校近くの幾春別川支流の三笠幌内川で「幌内川のクワーズ作戦」と、岩見沢河川事務所の職員が講師となり「川の観察」を行いました。



川の清掃では、捨てられていたビニール袋などを拾い集めたあと川に入り、川底の石の裏に付いている水生昆虫を採取して副読本「みんなの幾春別川」を参考に種類を調べて水質判定をしたとこ





# 川を愛する団体をご紹介 Part. 3 北村の川を愛し・良くする会

私たちのは、北村を流れる数多くの川や湖沼と親しみながら、より良い環境づくり、地域の特性を活かした村づくりに与することを目的として、平成9年3月に発足しました。会員は73名で、農家や建設業者、商工会関係などの職業を持つ人々が集まっています。

これまで、毎年7月第2土曜日に実施しているクリーンアップ作戦、小学生の柱沢ダム見学会、幾春別川周辺の植栽、緑の回廊づくり事業への参画、三世交代会、トム



治水功労賞授賞式の様子



トムソーヤキャンプで水遊び



カミネコンで森づくり

ソーヤキャンプなど川と川周辺の環境を守る大切さがしっかりと意識されています。見学会は小学生を対象とした「昨年度、治水功労賞をいただく環境を守りつづけています。」

## 川のおしごと Part.3 — 幾春別川ダム建設事業所 —

川を守り、川の水を有効に活用するために「ダム」があります。そのダムをつくる仕事をしているのがダム建設事業所です。幾春別川ダム建設事業所もその一つです。けれども、「幾春別川ダムって、どこ？」と思った人もいます。実際には幾春別川ダムという名のダムはありません。事業内容は、次の2つになります。今ある、柱沢ダムをもう少し大きくする「新柱沢ダム」の事業と、幾春別川支川の奔別川に「三笠ほんべつダム」という新しいダムをつくる事業を担当しています。この2事業は合わせて、「幾春別川総合開発事業」と呼ばれています。2つのダムは、ダム機能の柱である洪水調節に加えて、河川環境の保全、水道水や用水の安定供給などの役割も果たせるようにと計画されています。なかでも環境の保全については、十分な水量を確保して、川の生き物が生息しやすい環境をもたらすことを目指しています。さらに、ダム工事の工法においても、自然環境への影響を少なくする工夫が盛り込まれています。今、幾春別川ダム建設事業所は幾春別川で、このような大事な仕事を進めているのです。



幾春別川ダム建設事業所(三笠市幾春別山手町)

明治15年の開坑から幌内産ですが、三笠や岩見沢のまは順調に産出量を増やし、九ちも幾春別川流域の炭鉱と州の三池や高島に次ぐ大炭鉱へ一躍に発展してきたその代と歩んでいきます。

同19年に幾春別炭鉱が開坑。昭和16年、太平洋戦争に突入すると、日本各地の炭鉱は戦時非常増産の指令のもとで増産につく増産の、中には三井資本の系列とな産という時代を迎えていくなど本州の大手資本が続きと進

**川**の記憶「幾春別川と炭鉱」②

出、道内各地で石炭採掘が盛んになっていきました。それは、元昭利になってしまった。元幾春別川流域でも明治35年に奔別炭鉱、大正3年に弥生炭鉱、昭和6年に新幌内炭が開坑しています。こうして道内に多くの「炭鉱の町」が生じたの

### 石炭産業の発展～戦前まで



明治35年頃の幾春別川上流

は我慢できずに泳いでしまふ。帰るときに身体についた炭じんを落とすのだけれど、目の後ろが黒くなって、目の後ろを見つけれないのを見て「これだ」というお年寄りの思い出話、当時の幾春別川が汚れていたかを物語るエピソードの一つです。

## …Dr.リバーの何でも調査室…

「川のそばに建っている〇〇〇は何?」「どうして川は〇〇〇なの?」「川でみた〇〇〇みたいな生き物は何?」「川で〇〇〇の遊びをしてみたいけど大丈夫?」・・・川について知りたいと思ったこと、ふと疑問に感じたこと、大人に聞かれて困ったこと、そんなことはありませんか? 「大好き! 幾春別川」編集部が、そんな疑問を解決するお手伝いをいたします。

川の用語や川に関係する施設、川に棲む生き物、川でのレジャーなど、川に関する質問や疑問をどしどしお寄せください。このコーナーでご紹介、分かりやすく説明します。



感想お待ちしております!

最後まで楽しくお読みいただけましたか? 本紙ではこれからも、川に関する様々な話題を提供していきたいと考えています。そこで、楽しい誌面をつくるために読者みなさまからのご意見やご感想、または取り上げて欲しい話題などをお待ちしております。

【連絡先】  
TEL 011-709-5211  
FAX 011-709-5227

札幌市北区北11条西2丁目  
セントラルビル北14F  
財団法人北海道開発協会 事業調査部内  
「幾春別川」ニュース編集委員会 事務局  
TEL 011-709-5219  
FAX 011-709-5227